

2008年AIPLA秋のプリミーティングの報告

日本商標協会

会長 清水 徹男様

2008年12月6日

国際活動委員会

委員長 河合 千明

委員 広瀬 文彦

2008年10月21日(火)、22日(水)に、ワシントンDCのMarriot Wardman Park HotelにおけるAIPLAの年次大会に先立ち開催されたAIPLA IP practice in Japan Committee主催のプリミーティングに、当協会を代表して、国際活動委員会広瀬文彦委員と中山健一委員が出席いたしました。

会議には、日本特許庁、日本弁理士会、JETRO、AIPPI、LESの各代表が参加し、21日(火)は主に特許に関する日米のトピックスが23のテーマについて発表され、22日(水)の午前の前半が商標に割り当てられ4つのテーマ(アメリカ側2件でそのうちの1つは意匠、日本側2件)について各代表から発表がありました。詳細については添付アジェンダをご参照下さい。

日米双方から、最近話題となっている制度改正や判例の紹介が行われ、充実した内容となりました。商標に関するテーマは以下の通りであります。

米国：AIPLA

1. 手続きにおける詐術 (Fraud) George W Lewis

特に外国からの商標出願の隠れた危険について

2. エジプシアンゴッデス判決 David Hill

日本：JTA/JPAA

1. 日本の商標に関する最近の動向 広瀬 文彦

2. インターネットにおける商標権侵害 中山 健一

以下に、アジェンダとともにプレゼンテーションの内容を添付ご報告申し上げます。